***注：***

***この翻訳文書のライセンスは、原ブログから派生したCC BY-NC-SA ３．０です。***

***原ブログ：http://www.kroah.com/log/blog/2017/10/16/linux-kernel-community-enforcement-statement/***

***CC BY-NC-SA 3.0***

***https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/3.0/***

***Original English: Copyright © 2018 Greg Kroah-Hartman***

***Japanese translation: Hiroyuki.Fukuchi@sony.com***

**ライセンス遵守に関するLinux Kernelコミュニティによる声明**

2017年10月16日 木曜日

グレッグ クロー ハートマン、クリス メイソン、リック ヴァン リール、シュア カーン、グラント ライクリー著

開発者、企業、ユーザーが作り上げているLinux Kernelエコシステム（業界全体のビジネス構造）は、いかなる基準においても、過去20年に渡って群を抜いた成功を成し遂げています。この1年で500以上の企業と4,000人を超える開発者がKernel開発ツリーに変更を加えていることからもわかるように、Linux Kernelが世に出てから26年を経過した今日でさえ、Kernel開発者コミュニティは成長を続けています。毎年いつもグレッグが話しているように、Kernelは今年も前年より速く変化しました。10,000行のコード追加、2,000行の変更、2,500行の削除という作業が24時間、365日継続されていまして、私たちは1時間あたり約8.5の変更を取り込んだことになります。

しかしながら、Linuxの驚くべき成長と広範囲に渡る採用は、コミュニティが選択したライセンスGPL 2.0の遵守方法の発展をも必要としているのです。この点において、私たちのコミュニティが基本的なコンプライアンスについて期待していることは非常に明快です。エコシステムとしての私たちのゴールは、新しい参加者にコミュニティの期待を認識してもらい、彼らを手助けるとともに私たちのコミュニティの一員になれるように促す資料を提供することです。私たちの中の数名は、この目的で世界中のさまざまな企業を訪問することに多くの時間を費やしましたし、すべての人がライセンスを遵守しながらLinuxを使う方法を理解できるよう、他の多くの人々が実践的なガイドの作成に不断の努力をしてきました。これらには以下のような活動があります：

* コミュニティ主催の会議：[FSFE Free Software Legal and Licensing Workshop（https://fsfe.org/activities/ftf/legal-conference.en.html）](https://fsfe.org/activities/ftf/legal-conference.en.html)、[FOSDEM（https://fosdem.org/2018/）](https://fosdem.org/)、[Open Compliance Summit](http://events.linuxfoundation.org/events/open-compliance-summit) など
* 出版されたコンプライアンス ガイド：[Guide to GPL Compliance, Second Edition（https://www.softwarefreedom.org/resources/2014/SFLC-Guide\_to\_GPL\_Compliance\_2d\_ed.html）](https://www.softwarefreedom.org/resources/2014/SFLC-Guide_to_GPL_Compliance_2d_ed.html)、[Practical GPL Compliance](https://www.linuxfoundation.org/publications/practical-gpl-compliance-download-this-free-guide-today/)、[Open Source Compliance in the Enterprise（https://www2.thelinuxfoundation.org/open-source-compliance-ebook）](http://go.linuxfoundation.org/open-source-compliance-ebook)
* コンプライアンスに関するコミュニティ：[OpenChain（https://www.openchainproject.org/）](https://www.openchainproject.org/)、[SPDX（https://spdx.org/）](https://spdx.org/)

ライセンス義務の履行とソースコード入手を確実にするコンプライアンス プロセスは、残念なことに、個人的な金銭的利益を稼ぐためのトロール活動（訳注：保有する著作権の侵害を理由に金銭目的で企業を訴える行為）に不正に使えるのです。特に、Netfilter コミュニティ出身の開発者パトリック マッカーディ（Patrick McHardy）が、訴訟を秘密裏に暗示し、時によっては実際に訴訟を起こし、多額の金銭を要求する形で自分の著作権を行使するという問題が起こりました。彼が主張したコンプライアンス問題のいくつかは解決すべきものですが、それらは簡単に解決できる類のものです。しかし、さらに彼は、私たちのコミュニティの誰もがコンプライアンスに関係すると決して考えていなかったGPL 2.0のあいまいな点を根拠に権利主張をしました。

これらには、（無線通信やWiFiなど）無線によるファームウェア頒布でも、携帯電話機器メーカーはソースコード入手のための書面による申し出（Written Offer）を紙で配布する必要があるという主張、第3節の「equivalent access」という用語を根拠に、ソースコード サーバーはバイナリー サーバーと同じダウンロード速度を提供しなくてはならないという主張、GPL 2.0の現地語翻訳の要求などが含まれますし、他にも多数あります。

彼がこの活動をどのように続けてきたかは、最近ヘザー ミーカーによって実に良い文書（https://opensource.com/article/17/8/patrick-mchardy-and-copyright-profiteering）にまとめられています。

Kernelコミュニティの多数の開発者たちが、彼の活動について議論するためにパトリック本人と連絡を取ろうとしましたが、返事はもらえませんでした。さらに、Netfilterコミュニティは、コンプライアンス遵守に関する彼らの原理（https://netfilter.org/files/statement.pdf）を破ったという理由で、パトリックがコード貢献できないようにしました。（https://marc.info/?l=netfilter-devel&m=146887464512702）Netfilterコミュニティは、この件に関して自分たちで作成したFAQ（https://netfilter.org/licensing.html#faq）を公開しています。

Kernelコミュニティは、企業をコンプライアンス遵守に導く努力をいつでも支援してきましたが、コンプライアンス遵守を金銭的利益に利用することを考えたことは決してありませんでした。 パトリックは秘密裏に活動していますので、正確な数字を知ることはできませんが、活動から少なくとも数百万ユーロを得たと私たちは考えています。彼の活動は少なくとも4年は継続しており、私たちのエコシステムに対する信頼を脅かしていることを私たちは認識しています。

上記理由、および、Linux Kernelコミュニティの大多数のメンバーの思いを明確にすることは私たちのライセンスを遵守してもらうための正しい方法であるという理由から、Linux FoundationのTechnical Advisory Board（https://www.linuxfoundation.org/about/technical-advisory-board/）は、コミュニティ内の弁護士、個々の開発者およびLinuxの開発や利用を行う多くの企業とともに、Kernel Enforcement Statementを起草しました。これが書かれたのは、私たちが今日直面している具体的な問題に対して意見表明するとともに、将来同じ問題が起きないようにするためです。

すべてのGPL 2.0ライセンス遵守活動の主要なゴールは、企業をライセンス コンプライアンス遵守状態にし続けることです。Kernel Enforcement Statement（https://lkml.org/lkml/2017/10/16/122）は、まさにこれを目的として作られました。それは、違反が発見されたときに、コンプライアンス状態へ正すための時間的猶予を企業に与える追加許諾（Additional Permission）として良く知られたGPL 3.0に由来する同じ終了条項を採用しています。この追加許諾に頼ることができるということが、ユーザーに自信を回復させ、年来私たちが求めてきた当初の目的、つまり真のコンプライアンスへとコンプライアンス活動を向ける助けとなることを願っています。

私たちのエコシステムにいるKernel開発者は、他のKernelパッチと同じように、声明（Statement）への彼ら自身による承認をパッチの形でグレッグへ送ることができます。それらは喜んでマージされるでしょう。企業を代表して承認する権限を与えられた者は、彼らの名前の後のカッコ内に企業名を追加することができます。

注：この件がKernel開発者コミュニティで議論されたときに、多くの質問が出ました。このトピックについて質問があるときには、共通の質問に答えているGreg’s FAQ（http://kroah.com/log/blog/2017/10/16/linux-kernel-community-enforcement-statement-faq/）を見て下さい。

投稿グレッグ クロー ハートマン 2017年10月16日木曜日[enforcement](http://www.kroah.com/log/blog/categories/enforcement/), [kernel](http://www.kroah.com/log/blog/categories/kernel/), [linux](http://www.kroah.com/log/blog/categories/linux/), [statement](http://www.kroah.com/log/blog/categories/statement/)